

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価 担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	ゼロカーボンシティ推進
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	家庭系ごみ有料化事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	家庭系ごみのより一層の減量・資源化、ごみ処理にかかる負担の公平化、ごみに責任をもつ社会の実現を目指し、平成16年10月から、定期収集家庭ごみのうち、「燃やせるごみ」「破碎ごみ」について、大（40リットル相当）・中（30リットル相当）・小（20リットル相当）・特小（10リットル相当）の4種類の有料指定収集袋による回収を開始した。また、平成28年10月から、高齢者等ごみ排出量の少ない世帯の利便性の向上を目指し、従来の4種類に5リットル相当の「超特小」を加えて、5種類での運用を開始した。 この家庭系ごみ有料化事業の実施にあたって、5種類の有料指定収集袋を活用し、その製造、収納事務（スーパーなどの店舗における一般廃棄物処理手数料収納事務）及び配送・在庫管理に関する事務を行う。				
5年度概要	家庭系ごみ有料化事業の実施にあたって使用する有料指定収集袋につき、その製造、収納事務（スーパーなどの店舗における一般廃棄物処理手数料収納事務）及び配送・在庫管理に関する事務を行う。 また、引き続き外装袋に広告を掲載し、特定財源の確保にも努める。				
重点取組事業			市長マニフェスト		事務事業の類型

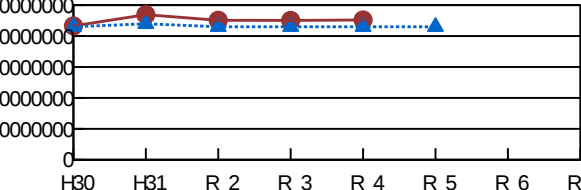
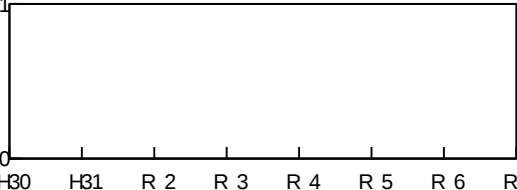
【事業の目的】

対象（何を）	ごみを排出する市内の全家庭
意図（どのような状態にしたいか）	各家庭がごみを排出する際に、有料指定収集袋を購入し、使用してもらう。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
有料指定収集袋作製枚数（特小換算）	枚	46,225,000	40,410,000	46,775,000	43,000,000	43,000,000

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）		単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	有料指定収集袋使用枚数（特小換算）		枚	目標値	43,000,000	43,000,000	43,000,000	43,000,000	43,000,000
				実績値	45,097,500	45,050,250	45,195,750		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 家庭ごみの減量化に伴い、袋の作製・使用枚数の減少を目指す。令和4年度の目標達成度は、94.9%となった。		(目標達成度)						
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）		単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
				目標値					
				実績値					
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）		(目標達成度)						

【コストの推移】

指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	107,231	177,743	182,879	203,235
（事業費）	〔円〕	100,497	170,948	176,143	196,499
（職員人件費）	〔円〕	6,734	6,795	6,736	6,736

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
平成28年10月から5リットル相当の「超特小」を加えた5種類での運用により、高齢者等の家庭ごみ排出量の少ない世帯の利便性の向上が図られたため、引き続き事業を実施した。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
平成28年度に超特小を導入し、「大」、「中」、「小」、「特小」、「超特小」の5種類とした指定収集袋を活用した、家庭系ごみ有料化事業の円滑かつ適正な運用を継続することにより、利便性の向上も図りながら引き続き、家庭系ごみの減量・資源化を推進する。			

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	ゼロカーボンシティ推進
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	ごみ減量・資源化啓発事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	「ごみ分別ガイドブック」・「ごみ収集カレンダー」、小学校社会科副読本「きれいな高松に～くらしとごみ～」の作製・配布に加え、平成 2 8 年 1 1 月から、新たに、スマートフォン・タブレット端末利用者に向けての「ごみ分別アプリ」の配信を開始する等により、ごみの減量・リサイクルを推進するとともに、高松市脱炭素型行動推進員の各校区への配置による地域ぐるみの主体的なりサイクルの推進に取り組む。				
5年度概要	ごみ分別ガイドブック・ごみ収集カレンダー（主に広報紙を活用した周知）、ごみ分別アプリの配信等により、ごみの減量・リサイクルを推進するとともに、高松市脱炭素型行動推進員の各校区への配置による地域ぐるみの主体的なりサイクルの推進に取り組む。				
重点取組事業		市長マニフェスト	2-	事務事業の類型	

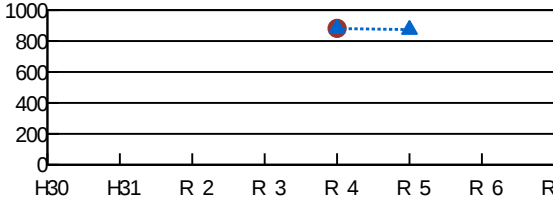
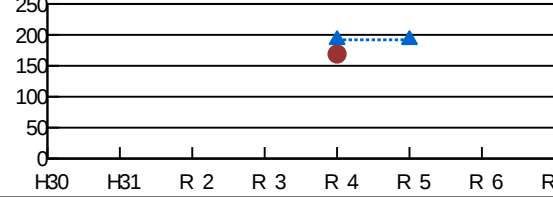
【事業の目的】

対象（何を）	ごみを排出する市内の全家庭
意図（どのような状態にしたいか）	ごみ分別ガイドブックを配布することにより、各家庭が正しいごみの分別方法を理解し、資源物は資源物、有害ごみは有害ごみ、燃やせるごみは燃やせるごみなどのように正しく分別してごみを出してもらう。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
ごみ分別ガイドブック配布数	冊	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000

【事業の成果】

	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	1人1日当たりのごみ排出量	g / 人	目標値			881	874	874
成果指標			実績値			882		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） ガイドブック等により正しい分別やりサイクルの推進等の周知啓発を行い、市民・事業者の「ごみの減量と再資源化」に対する意識向上を図った結果、概ね目標を達成した。	（目標達成度） 						（達成度） 99.9% 34点
	1人1日当たりの資源化量	g / 人	目標値			192	192	192
成果指標			実績値			169		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 資源ごみや小型家電等のリサイクル、正しいごみの分別方法の周知等、各種事業の実施により前年度より実績は向上したものの、目標達成には至らなかった。	（目標達成度） 						（達成度） 88.0% 30点

【コストの推移】

指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	10,072	10,102	9,727	9,657
（事業費）	〔円〕	1,468	1,419	1,120	1,050
（職員人件費）	〔円〕	8,604	8,683	8,607	8,607

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
ごみ分別ガイドブック、ごみ収集カレンダー、ごみ分別アプリ等により、ごみの減量・リサイクルを推進した。カレンダーを広報紙に掲載したことを周知してきたが、未だ問い合わせはあるため、粘り強く周知、対応していく必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
ごみ分別ガイドブック、ごみ収集カレンダー（広報紙掲載）、ごみ分別アプリについて、より適切に分別・資源化が行われるよう、更に効果的な活用方法を検討していく。			

総合計画体系	まちづくりの目標		安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策		環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	ゼロカーボンシティ推進
	施策		ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業		ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	
	事務事業		ごみ再資源化事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

事業の概要

年度概要 家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等の資源ごみを、再資源化のための中間処理を行い、プラスチック、色つきのびんについては日本容器包装リサイクル協会に引渡し、缶・びん・ペットボトル、紙類など有価にて売払いで
きるものは専門業者に売却する事業を行う。

重点取組事業	市長マニフェスト	2-	事務事業の類型
--------	----------	----	---------

対象（何を）	家庭から出された資源ごみ
意図（どのような状態にしたいか）	家庭から分別して出された資源ごみを再資源化することにより、環境への負荷の低減と限りある資源の有効活用を推進する。

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
缶・びん・ペットボトル中間処理量	k g	2,787,420	2,370,580	2,372,160	2,600,000	2,600,000
プラスチック中間処理量	k g	3,538,110	3,419,860	3,282,270	3,300,000	3,300,000

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	缶・びん・ペットボトル資源化量	k g	目標値	2,250,000	2,250,000	2,250,000	2,250,000	2,250,000
			実績値	2,439,549	2,266,610	2,016,160		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 家庭ごみ中の資源化の推進による資源ごみ量の増加要因と、家庭ごみ全体の減量化の推進による資源ごみ量の減少要因から、缶・びん・ペットボトルの資源化量は現状数量で維持する。なお、令和4年度は目標を下回った。 （目標達成度）	（達成度） 89.6% 31点						
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	プラスチック資源化量	k g	目標値	3,026,000	3,026,000	3,026,000	3,026,000	3,026,000
			実績値	3,107,168	3,002,350	2,967,270		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 家庭ごみ中の資源化の推進による資源ごみ量の増加要因と、家庭ごみ全体の減量化の推進による資源ごみ量の減少要因から、プラスチック容器包装の資源化量は現状数量で維持する。なお、令和4年度は目標を下回った。 （目標達成度）	（達成度） 98.1% 34点						

指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	円	198,161	190,129	184,128	204,917
（事業費）	円	191,427	183,334	179,263	200,052
（職員人件費）	円	6,734	6,795	4,865	4,865

評価ランク (A～D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
----------------	---	------------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

缶・びん・ペットボトルについて、中間処理量は増加したにもかかわらず、資源化量が減少した。適切な分別の徹底等により、資源化量を増加させていく必要がある。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

引き続き、家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等資源ごみの中間処理を行い、再資源化を推進する。

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境業務課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-834-0389
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	小型家電等リサイクル推進事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	支所・出張所や家電販売店及び「不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦」などのイベントに回収ボックスを設置して、使用済小型家電 3 2 品目を回収する。また、南部・西部クリーンセンターの委託業者の協力を得て、ピックアップ回収を実施する。				
5年度概要	小型家電リサイクル事業の普及・啓発事業のため、チラシの作成及び配布を行う。				
重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務有）

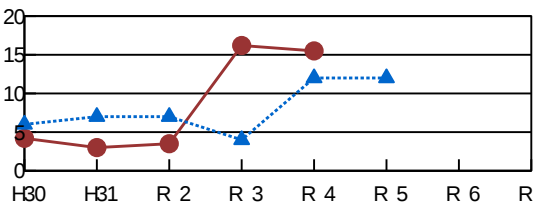
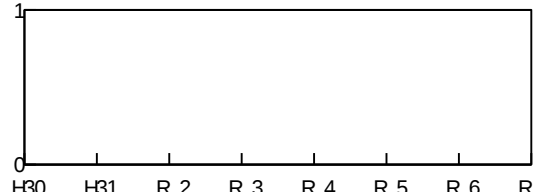
【事業の目的】

対象（何を）	・不要になった携帯電話、デジタルカメラ、ゲーム機等の使用済小型家電 3 2 品目。 ・家庭から出る破砕ごみから回収された使用済小型家電 3 2 品目。
意図（どのような状態にしたいか）	・使用済小型家電の回収を実施することにより、レアメタルを含む有用な金属のリサイクルを推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
住民説明会等の実施回数	回	14	2	1	13	13

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	年間回収量	トン	目標値	7	4	12	12	12
			実績値	3.5	16.2	15.5		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 令和 3 年 4 月から回収品目にパソコンなど 1 1 品目を追加したことにより、令和 4 年度の回収量は約 1 5 . 5 トンとなり、前年度とほぼ同量の回収量を確保することが出来た。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により「不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦」などのイベント等は中止となった。		(目標達成度)					(達成度) 129.2% 35点
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
			目標値					
			実績値					
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）		(目標達成度)					(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	807	814	809	811
（事業費）	〔円〕	59	59	61	63
（職員人件費）	〔円〕	748	755	748	748

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
回収品目が拡大されて 2 年目ではあるが、引き続き回収量は前年度並みを確保することができた。また、一定の周知啓発も図ることができた。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
引き続き周知啓発を図り、一層の回収量増加に取り組むとともに、更なる回収対象品目の拡大についても検討する。			